
第49回全国ホタル研究会大会報告

1. 研究大会の概要

(1) 概要

全国ホタル研究会の第49回大会が平成28年7月1日～3日の3日間、鳥取県米子市にて全国各地から203名のご参加をいただき、盛大に開催されました。

主催：全国ホタル研究会

主管：第49回全国ホタル研究会鳥取県よなご大会実行委員会

共催：鳥取県ホタルネットワーク

後援：環境省・鳥取県・米子市・南部町・日南町・江府町・鳥取県教育委員会・新日本海新聞社・山陰中央新報鳥取総局・朝日新聞鳥取総局・毎日新聞鳥取支局・読売新聞鳥取支局・産経新聞鳥取支局・共同通信鳥取支局・NHK鳥取放送局・日本海テレビ・山陰放送・山陰中央テレビ・エフエム山陰・中海テレビ

7月1日（金）

13時から米子コンベンションセンターにて受付が始まり、14時よりオリエンテーション、14時30分からは分科会が開催されました。分科会は米子市、南部町、江府市、日南町の4つの市町で開催され、ホタルの活動の取組みや環境保全、町づくりなどのテーマをもとに発表が行われました。

20時より日南町^{ふくまき}福万来にてホタルの鑑賞会が行われました。日野川支流の^{こぼらがわ}小原川を飛翔するゲンジボタルと山間を飛翔するヒメボタルの共演に、参加者からは歓喜の声が出っていました。

7月2日（土）

オープニングアトラクションとして、鳥取県立日野高等学校郷土芸能部による荒神神楽「八重垣能」が披露されました。素晴らしい演技により会場の空気が温まり、第49回全国ホタル研究会鳥取県よなご大会が開会されました。遊磨会長による主催者挨拶、平井知事や田辺大会実行委員長、野坂米子市長による歓迎挨拶の後、来賓の祝辞と紹介がなされました。

大会では、午前に3小学校の子供達による活動発表、午後に1題の地元発表と7題の会員研究発表が行われました。

総会では、第50回の開催地が新潟県関川村大会であることを確認しました。また、第51回の開催地が北海道稚内市に決定されました。

交流懇親会では、米子がいな太鼓保存会の若あゆ連による迫力ある演奏から始まりました。山脇大会事務局長や平井知事、野坂米子市長の挨拶、中山大会名誉副会長の乾杯、安来節保存会と淀江さんこ節保存会による郷土民謡の演奏があり、会員や地元大会関係者との親睦が深まりました。次期開催地である新潟県関川村に大会旗の受け渡しがあり、次期開催地を代表して新潟県関川村の平田村長の挨拶が行われました。

7月3日(日)

希望者による地域観光(水木しげるロード、とっとり花回廊)を行い、各自解散となりました。

(2) 会場

- メイン会場：鳥取県米子市 米子コンベンションセンター
- 第1分科会：鳥取県米子市 米子コンベンションセンター6F 第7会議室
- 第2分科会：鳥取県南部町 緑水園
- 第3分科会：鳥取県江府町 江府町立江府中学校 多目的ホール
- 第4分科会：鳥取県日南町 日南町山上地域振興センター

(3) 大会日程

7月1日(金)

- 13:00~14:00 参加者受付
- 14:00~14:30 オリエンテーション
- 14:30~20:00 分科会
- 20:00~21:00 ホテル観賞会
日南町^{ふくまき}福万来、福万来ヒメボタルの里にてゲンジボタル・ヒメボタルの観賞

7月2日(土)

- 08:30～09:30 参加者受付
- 09:30～10:00 アトラクション 荒神神楽「八重垣能」
鳥取県立日野高等学校郷土芸能部
- 10:00～10:30 第49回全国ホタル研究会鳥取県よなご大会
開会式
遊磨 正秀(全国ホタル研究会会長)
平井 伸治(鳥取県知事)
田辺 雄一(よなご大会実行委員長)
野坂 康夫(米子市長)
来賓紹介・祝辞、祝電披露
- 10:40～12:00 小学生発表
- 13:00～17:00 研究発表
- 17:00～17:30 第49回全国ホタル研究会総会
- 18:00～20:30 交流懇親会

7月3日(日)

- 09:00～13:00 地域観光(水木しげるロード、とっとり花回廊)

(4) 分科会目次

①第1分科会

「ホタル復活の取組みと幼虫飼育について」…… ホタルネット春日幼虫飼育部

②第2分科会

「ホタルの里づくりを通して地域の活性化を!!」…… 金田川ホタルの里

③第3分科会

「ホタルの生息環境保全と学習 ～江府町に生息するホタルの生態調査を通して～」
…… 奥大山江府町ホタルの会

④第4分科会

「ホタルと町づくりについて」…… 山上まちづくり自治振興部

(a) 小学生発表

- ①「大山のヒメボタルの調査」…… 大山町立大山小学校4年生

- ②「ホタル学習を通して地域を愛する心を育てる ～ホタルは会見の宝～」
 …………… 南部町立会見小学校5年生
- ③（劇）「箕蚊屋の自然を守ろう」 …………… 米子市立箕蚊屋小学校6年生
- ④「ホタルの環境保全と学習」 …………… 奥大山江府町ホタルの会
- ⑤（劇）「守ろう！ホタルもみんなも生きている ～大奥山のホタル観察とブナの実プロジェクト～」 …………… 江府町立江府小学校5年生
- ⑥「にちなん大好き。お宝紹介 にちなんお宝発見隊」 …… 日南町立日南小学校4年生

（5）研究発表

地元発表

- ①「ホタルと私」 …………… 中村 恭久（鳥取県ホタルネットワーク中部支部長）

会員発表

- ②「ヘイケボタルが飛ぶ故郷を目指して ―愛知県豊田市高橋地区の事例―」
 …………… 石原 武
- ③「“ホタルの舞う高校”づくり ～ホタル育成を通して地域環境保全の発信を～」
 …………… 吉田 巧・門川高校ホタルプロジェクト班
- ④「幼虫飼育用木製容器の開発と工夫」 …………… 古田 忠久
- ⑤「簡単に制作できる「小型水槽でのカワニナ稚貝収集装置」の開発」
 …………… 中村 光男
- ⑥「滋賀県守山市の「ほたるの森」におけるゲンジボタル個体群の経年変化」
 …………… 井口 豊・竹内 辰郎
- ⑦「大山頂上のヒメボタル」
 …………… 米澤 正美・山崎 健一・鷺見 寛幸・日和 佳政・草桶 秀夫
- ⑧「ヒメボタルの2生態型について」 …………… 大場 信義

大会開催地より

第49回全国ホタル研究会鳥取県よなご大会

実行委員長 田辺 雄一

全国ホタル研究会が平成28年7月1日～3日まで、米子コンベンションセンターを主会場として盛大に開催されました。北海道～沖縄県久米島まで日本全国からたくさんのホタル愛好家が集まり、衆参国会議員、鳥取県知事、県会議長、米子市長をはじめ鳥取県西部の市町村長が全員で歓迎し、楽しい一時を過ごして頂きました。

高校生による「荒神神楽の舞」、交流懇親会での「米子がいな太鼓」、「安来節やドジョウすくい」、「淀江さんこ節」と地元芸能も披露し、全国の皆さんに堪能して頂きました。

箕蚊屋小学校をはじめ、大山小学校、南部町会見小学校、江府小学校、日南小学校がそれぞれ演技や研究発表をし、地域一帯となった活動を全国の人にPR出来ました。

そして、なにより大成功だったのが、日南町福万来のヒメボタルとゲンジボタルのコラボレーションでした。天候や飛翔条件に左右されますが、当日はどちらのホタルたちも数え切れないほどの乱舞で、全国の愛好家を魅了しました。

この大会を通じ、地域全体の結束力が更になり、今後の活動の源となることでしょう。関係者の皆様、どうもありがとうございました。

全国ホタル研究会全国大会を終えて

鳥取県ホタルネットワーク事務局長 山岡 憲樹

米子市を中心に開催された今回の第49回大会は、運営面でも研究発表においても、画期的と確信できる実り多い大会であったと思います。

運営面での特筆される成果は、大会史上初めて分科会を4市町に分散して開催し、地元住民の自然環境への関心を高める契機となったことが挙げられます。

分散開催には、多くの労力が求められたわけで、この成功には地元市町長始め多くの方々のご協力があってこそその成果であったと深く感謝申し上げたいと思います。

また、研究発表面での成果は、中国最高峰の大山山頂に生息が確認されたヒメボタルが、固有種であることが正式に発表され、高地であるだけでなく厳冬期の厳しい環境にも関わらず、たくましく生息することが判明したことは単に鳥取県だけの成果にとどまらず、全国各地でのホタルの生命力の強さを示す画期的な調査発表となったと確信を

与えるものではないでしょうか。

今後、地元でのネットワークは勿論のこと、県を始め関係機関と協働で食性や植生、地形や気候との関係性を本格調査する予定となっていて、未解明の部分が多いとされるヒメボタルの生態解明に一步前進が図られる見込みとなったことは喜ばしいことと受け止めています。

大会では、今後の課題も浮き彫りにされたのではないのでしょうか。

全国大会と銘打ってはいますが、参加者も年々高齢化が進み、残念ながら全都道府県からの参加が実現できませんでした。

ホタル研究と保護活動に携わる後継者育成が急務であることが示されたわけです。これには研究会本部の強力な指導のもと、関係者の知恵を総結集して若い世代に働きかけをしなければなりません。

やはり一部の愛好者の熱意だけでの取り組みには限界があり、地域ぐるみで保護活動をしている所はスムーズなバトンタッチがなされていることが、分科会の様子から伺えたことは大きな収穫であったと、敬意を表したいと思います。

とくに、地元の5小学校生徒達の出演は立派な内容で、今後に大きな希望となりました。

また、今大会が大成功と目された原因の一つには、初日の福万来地区でのホタル観賞会がゲンジボタルとヒメボタルの素晴らしい共演によるところが大きかったと思います。今後の大会には鑑賞会の成否が成功のカギとなる先例になったとみるべきでしょう。

最後に、鳥取県は今回の成功を基礎に「ホタル王国鳥取」の建設を目指し、県内のどこでもホタルが舞う、昔の良き原風景を取り戻すことを強くお誓いして、感想発表に代えさせていただきます。

第4分科会「ホタル観賞地日南町福万来から」

日南町「福万来ヒメボタル保護の会」 蛍守 近藤 仁志

第49回全国ホタル研究会鳥取県よなご大会のホタル観賞地として、日南町福万来の地を訪れて頂き、誠にありがとうございました。主会場の米子市から1時間以上かけての行程は、参加者の皆様にとって大変だったことと思います。

例年ですと、7月1日のヒメボタル出現は、1～2割程度であり、当日見ていただくことができるのか、また今年は暖かい春で例年より早いゲンジボタルの飛翔を確認した

ので、全国大会時には姿を消してしまうのではないかと、心配の種は尽きませんでした。しかしながら、ゲンジボタルはたくさん残って飛翔し、ヒメボタルも今までに経験したことがないような早い時期にピークを迎えました。ホタルたちは、全国からの皆様の来訪を心待ちにしていたのではないかと感じた次第です。

急峻な山あいを天高く飛び交うゲンジボタルと山の中を埋め尽くさんばかりに輝きを展開するヒメボタル、耳を澄ませば川のせせらぎと共に聞こえるカジカの声、最高の時期にお越しただけました。ひと時の安らぎと感動を提供できたのではないかと安堵しております。

「福万来ヒメボタル保護の会」が長年夢見てきた全国デビューを飾れた貴重な一夜でもあり、今後の取組みや活動に大きなエネルギーを頂戴した全国大会となりました。

便利の悪い地ではありますが、原風景を残しホタルが飛び交う空間、時間を守っています。またのお越しをお待ちしております。

